ルランティ

ア

の皆

る







izumi-en presents 25 th Anniversary

■発行日/平成29年10月2日(土) ■発行者/緑の会 いずみ園 ■電 話/04-7176-8085(代) ■F A X/04-7176-8087 ■e-mail /front@izumien.jp

いずみ園 理事長 滝本 二三江

想い起こせば、いずみ園の玄関の正面に掲げられてある力強い「希望」という額は、平成4年10月1日の竣工式に間に合うように、今は亡き柏市内の書道家横川草園先生から贈られました。当日は透き通るような青空のもと、園旗がそよ風にはためいて笑顔の入園がそよ風にはためいて笑顔の入園がそよ風にはためいて笑顔の入園で生きたい。と柏市逆井に「いずな園」を開園して、このたび25周年を迎えることができました。

25

一省みればー 障害者への諸制度は、これまで ノーマライゼーション(障害を持 っていても地域社会で普通の暮ら しを実現する脱施設化)を基軸に をがらえるように活動してきた私 なぞらえるように活動してきた私 たちは、これからますます共に生 たちは、これからますます共に生 たちは、これからますます共に生 たちは、これからますますよります。 今後ともご理解ご支援下さいます ようよろしくお願い申し上げま す。 25 周年を迎えて
25 周年を迎えて
こまでは強いでいずみ園に入職でした。その時も身の引き締まる思した。その時も身の引き締まる思した。その時も身の引き締まる思した。その時も身の引き締まる思した。その時も身の引き締まる思したが、今年4月からの社会福祉法改正後は、改めてなお一層、役員としての役割、責任を強く感じております。
これまでは福祉制度の変遷に支えて頂くばかりだったように支えて頂くばかりだったよう

ーグループホーム設置ー ・ 大学の高齢化進行の波は、障害 を建設致しました。 ・ 社会の高齢化進行の波は、障害 を建設致しました。 ・ 社会の高齢化進行の波は、障害 を建設致しました。 ・ 日々の介助の困難さは明らかで、日々の介助の困難さは明らかでした。そこで「いずみ園」の20周年記念事業として、柏市増尾台の住宅地に土地を求め、まずは近隣の方々のご理解を得て2階建の普通の家を建てました。ショートステイを含め10室で、緊近の課題として先ずは地域の医療機関等との連携が必至でありました。これからも"地域社会で普通に暮らす" は、私たち親の会だけでは到底及は、私たち親の会だけでは到底及びない金額でした。多くの方からながであり、「いずみ園」の周年行かげであり、「いずみ園」の周年行かがであり、「いずみ園」の周年行かがであり、「いずみ園」の周年行かがであらの感謝の催しなのであるい心からの感謝の催しなのであります。

25周年を迎えて 福祉の仕事を始めた頃は、「困 福祉の仕事を始めた頃は、「困 でいずみ園に入職して10年が経 年、いずみ園で入職して10年が経 年、いずみ園でで10年は本当にあ いずみ園でどうすれば日中活 がいずみ園でどうすれば日中活 がいずみ園でどうすれば日中活 がいずみ園でどうすれば日中活 がいずみ園でとうすれば日中活



いずみ園 施設長

山崎 裕介

いずみ園 事務長

松永 光代

に思います。 ようする今、社会福祉法人緑の会ようする今、社会福祉法人緑の会の理事として、すべきことをいずる者、利用者の皆さんが地域社会の中で自分らしく暮らしていくために、なにが必要かを考えていこうと思います。 また これまでの緑の会が地域であために、なにが必要かを考えています。 また これまでの緑の会が地また これまでの緑の会が地また これまでの緑の会が地また。 まだまだ未熟でございますが、どうぞご指導の程よろしくお願どうぞご指導の程よろしくお願いたします。

たけでは無く、夜間の過ごし方や 家庭でどう家族負担を軽減した らよいかなど、利用者さんが地域 で普通に暮らすためにいずみ園 で何が出来るかを考えさせられ ました。 私自身、プライベートでも結婚 をし、子供が生まれ、家を購入し、 いずみ園と共に様々な経験をし つの自分でどれだけ地域やい すみ園に貢献できるかは分かりませんが、これまでの経験を生か して総合的に利用者さんの支援 をしていきたいと考えておりま して総合的に利用者さんの支援 をしていきたいと考えておりま して総合的に利用者さんの支援 をしていきたいと考えておりま して総合的に利用者さんの支援

達です。火曜日以外でもイベントの時には必ず お手伝いに来て頂いて本当に助かっています。

2017年(平成29年)10月2日



真橋先生のリトミック 年に4、5回程リトミックを で楽しみにしている利用者さんが沢山います。



日本アニマルセラピー協会 年に1回から2回程 安心して触れ合うことが出来ています。



手伝いに来て頂く、頼りになるボランティアさんん産のコーラスの写真です。毎年、クリスマス会 で練習の成果を披露されています。いずみ園 の利用者さんもウットリされています。



増尾ジェンヌの会 年に2回ほどハンドトリートメ 行って頂いています。皆なの好きな曲を弾いて ントを行って頂いています。ベビーオイルを使 頂きながら身体を動かしたり音の出るおもちゃ 用してじっくりと手をマッサージして頂いていま を使って演奏したりしています。人気のイベントす。利用者さんの中にはリラックスして眠くなる 方もいました。



て踊ります。このレクが終わる頃にはみんな汗だでいる内にどんどん楽しくなってきます。 くになる程夢中で頑張っています。



の皆さんが、本当に一生懸命やできないことを、ボランティアできないことを、ボランティアと広がってくれるのです。と広がってくれるのです。といずみ園は、本当に幸せな施設です。誰がお願いする訳でも

ちは思い続けています。そんなボランティアの皆さんで、こんな力が日本中、いや世んが、こんな力が日本中、いや世んが、こんな力が日本中、いや世のが、こんなボランティアの皆さんで素晴らしいかと、いつも私たちは「感謝」しか贈れませんが、こんなボランティアの皆さんです。





日本車椅子レクダンス協会柏支部 年に5、6 かしわっこ笑いヨガクラブ 年に5、6回ほど笑いヨ 度アニマルセラピーをして頂いています。良く躾 回車椅子レクダンスを行って頂いています。懐 ガをして頂いています。最初の頃は「??????!」な気 がされているわんちゃん達で利用者さんたちも かしい曲やみんなが良く知っている曲に合わせ 持ちでしたが、「やったーやったー、イエーイ」とやっ

《編集後記》 《編集後記》 《編集後記》 本当にありがとうございました。 本当にありがとうございました。 そして、私としては本紙特別号 を無事に発行することが出来、少 しだけ「ほっ」としております。 今回の会報ではとても多く写 真を配置していて文字を少なめ にしています。何故かというと私 もですが、あまり文字数が多いと もですが、あまり文字数が多いと もですが、あまり文字数が多いと さる方はきっと全面を見てくだ さると思いますが・・・。 それでは引き続き、緑の会いず み園にご支援、ご協力をお願い致 ります。(Y)

いずみ園では利用者と共 に作業、外出、移動、食事介 助にご協力頂ける方のご 参加をお待ちしています。 一度ご体験ください。

住 所:柏市逆井 341 番地 電 話:04-7176-8085(代) Email: front@izumien.ip 時間: 9時30分~15時

これから映画を見に行ってきま~す。ど んな感動がまっているかな~?



みんなノリノリ~♪で過した楽しかったカラオ ケタイム。また行きた~い。





みんなでまったりとティータイム!宇治抹 ちょっと休憩タイム。次はどっちへ行こうかな?



何かおいしい物があるかな?



14人の団体でボーリング大会。みんな 楽しかった遠足もそろそろ帰る時間。楽しい時間はあ ようやく楽しみにしていたお昼ご飯。 っという間に過ぎてしましました。

ボーの提



9月7日(木)

アリオ柏

外で食べるのはおいしい!

日



で体を動かしました。

利ても体 こが一多用も乗で ルないないである。対応



T

柏南部という人々が温かい地域で歩んだ25年

《沿革・歴史》



•昭和61年

松戸養護学校(現松戸特別支援学校)の卒業後の進路先の一つとして、また肢体不自由児者の通 所の場として無認可作業所「緑の会」を発足。

•平成3年12月

社会福祉法人格を取得。作業所の名称をそのまま引き継ぎ「社会福祉法人緑の会」とする。

·平成4年10月

「身体障害者通所授産施設いずみ園」を開園

•平成15年10月

千葉県から「重症心身障害児者通園事業 B型」を新規に委託され事業名を「のぞみ」としスタート させる。

•平成15年10月

土日祝祭日の通所の場として、「身体障害者デイサービスさくら樹」、また学齢期の障害児支援とし て、「児童短期入所(日中預かり)たんぽぽ」を開始。

•平成18年10月

障害者自立支援法施行に伴い身体障害者通所授産施設から「生活介護」に、身体障害者デイサー ビスから「地域活動支援センター」に、児童短期入所(日中預かり)から「日中一時支援事業」に事業 を変更。

•平成24年4月

制度改正に伴い重症心身障害児者通園事業B型が「生活介護事業」に変更。

•平成25年4月

ケアプラン作成のための、「相談支援事業所いずみ園相談支援センター」を開始。

•平成25年5月

共同生活援助(当時は共同生活介護)増尾台ウィズホームを開始。

•平成25年7月

短期入所増尾台ウィズホームを開始。

•平成26年3月

柏市の地域活動支援センターの補助基準の見直しにより地域活動支援センターを閉所。その代替 として生活介護いずみ園を土曜祝祭日に拡張。 現在に至る。















園芸活動

オクラやジャガイモ、大葉にインゲン、 ラディッシュ、芽キャベツなどいろい ろな種類の野菜を育てました。特にジ ャガイモは大量に取れたので収穫祭を してみんなで食べました。



玉入れレクリエーション

職員の背負っている箱の中に玉を入れ るゲームです。利用者さんの中には職 員を狙っている人がいるかも?



散歩

日は近くの公園でゆっくりと過ごしまポスターの前で写真を撮りました。 した。

いずみ園では、上の様な活動にご協力頂け るボランティアさんを募集中です。ご希望 の方は一度お気軽にご参加ください。



沢山の皆さんに支えられ、背中を押してもらえてるいずみ園のみんな。だから自分で力いっぱいキラッキラ光っています。



毎年2月ごろにいずみ園では鬼が出るので利用者さんで力を合わ せて退治しました。



アニマルセラピー

たくさんのわんちゃん達が遊びに来て くれました。とても優しいわんちゃん でみんな癒されていました。



いずみ園喫茶

この日はゼリー作りでみんなでみかん ゼリーを作りました。「美味しかった \sim 。」



カラオケ

毎月行われる人気のレクで皆さん熱唱さ れています。利用者さんの中には前日に歌 いたい曲を決める方もいらっしゃいます。

盆踊り

この日は地域の町会から太鼓を借りてみん なで盆踊りを行いました。この写真のポスタ ーは夏休みに来てくれた中学生が一生懸命 作ってくれました。



気候の良い日はお散歩に行きます。この この日は創作活動でみんなで製作した

書初め

新年最初のレク活動は書初めです。皆さ ん好きな言葉を自由に書かれていまし た。



活

9

\$

7

な

重

13

害を

か

で

きる

た

6

0

交流 を大 て 多 できな 切 9 助け 9 方々 合う 生 7

職員一同 創業から25周年の今日まで 一貫してこの理念を胸に 私たちいずみ園では

真っ直ぐに・・・ これからも

今年、緑の会いずみ園が25周年を迎え沢山の思いいずみ園の一日、ご招待頂いだいます。」で始まるうございます。」で始まるいがら園庭で夏野菜を育い出は。なから園庭で夏野菜を育ながら園庭で夏野菜を育ながら園庭で夏野菜を育ながら園庭でのは、ボランティアさんにいます。」で始まるい出は。なかでも印象深いい出は。なかでも印象深いい出は。なかでも印象深いいがありとコロッケの味、バザー等の思いただきのは、ボランティアさんにいずみ園が が良く、丁寧な土作り、水やり、命への愛情が大きな実りをもたらしたのではないでしょうか。これからの緑の会も一日の歩みのではのながりますよう心より祈念します ケアホーム紹介

いずみ園ケアホーム





いと始まった「増尾台ウィに暮らしたい」を実現したたちが、「住み慣れた地域重度の障害を持つ青年 イた域年



はと考えて し、この実 し、この実 がある、重 が、この実 がある。 は、このま は、このま

障害をもった人のために 力の限りつとめております。

共同生活援助事業所「増 尾台ウィズホーム」が設立 されてから4年が経過し されてから4年が経過し されてから4年が経過し される役割は「現在の生 だスは日々変化していき ますが、ウィズホームが求 められる役割は「現在の生 活をどのように維持して いくか」その点に尽きるの ではないかと思われます。 ではないかと思われます。 ではないかと思われます。 その変化に対現るの変化に対している。 化に対応 心しつつ つ 活を維持していく為には現在の生活を職員・入居者・保護者が正確に理解する必要があると思われます。これからも様々な方にご協力頂きながら笑顔のく一緒に過ごしていければと思います。

ウィズホーム

ホーム長

斉藤 貴彦

主任

増渕 則子

いずみ園5周年を迎え るにあたり、人と人との繋 るにあたり、人と人との繋 がりに感謝するとともに、 日頃から支援して下さる 皆様の支えがあるからこ そのいずみ園であると思 います。 今ここにある現実を見 落とさず、より多くの利用 著の皆様のニーズの充足、 た地域の中で、自分らしく た地域の中で、自分らしく 宜しくお願い致します。ありますが、今後もどうぞありますが、今後もどうぞと思います。

々努力をしている様々な経験をし

きたが

紹

主任リーダー

裕美

齋藤

しての対応が必要です。それらの重要性を実感した 色濃い4年間でした。今後 もご利用者様の笑顔に結 が付けられるよう努力し、 いずみ園自身を支える柱 の一つになっていきたい と思います。 談一皆

いずみ園での看護師としての役割は、利用者の皆さんが、日々元気に安全に過ごせるようお手伝いすることだと考えています。 で自分から、体調の変化を訴えるのが難しい方が多くいらっしゃるので、日々のわずかな変化などに気を配りながらかかわっていきたいと思います。いずみ園が25周年を重ねたということは、その分

の方々や社会資源と連携 の方々や社会資源と連携 の方々や社会資源と連携 の方々や社会資源と連携



送迎

運転手

の皆さん



でにパなえ注ね



また、新しい利用者さんを日々送迎して頂いています。 す。いつも安全運転ありんの家の場所を確認すんの家の場所を確認すまた、新しい利用者さ

そんな職員の皆さんが このいずみ園の今を 築いてきてくれました。

あったかで

ほのぼのして

みんなのことが

大好き。

笑顔がすてき

みんなに感謝"

「どんなに重い障害があっても「何かができる」 ーなで助け合う」 そして多くの方々との交流を大切にして、地域社会の中に生活の基盤を築いていきたい」という基本理念と共にいずみ園は始まりました。現在、政府は年齢や障害の有無に関わらず、お互いの人格や個性を尊重し合ってともに支えあえるようなともに支えあえるような



主任

社会づくりを目指しています。この25年間、地域の方との様々なかかわりや利用者の方との毎日が共生社会実現の大切な一場生社会実現の大切な一場ちも微力ですが、努力してらも微力ですが、努力しておいります。

田村 直子

ず み園職員 0 皆さ h

65

いずみ園で利用者されに安心、安全をモットんに安心、安全をモットと日々頑張っている職員さん達です。 る職員さん達です。 みなさん個性的で様々な角度からアイデ様々な角度からアイデルがら支援に携わって頂いています。 つ談デで い頂トさ

訪れる方を快く向い入れる素敵な玄関



駐車場も広々と確保し、便利な使い勝手が評判のウィズホーム外観

月に4年を迎えました。 当初、入居者は親が待つ 自宅とは違う環境に緊張 が、今はわが子の自立生活 への支援の声と安心感に 変わりました。 これからの課題としてグルー でもありました。 人材確保は、社会的な問題でもあります。また、福 を機関との連携も不可欠 が、今はわが子の自立生活 の支援の声と安心感に 変わりました。 に、プホームに住まうには、複 が必要です。 人材確保は、社会的な問題でもあります。また、福 を機関との連携も不可欠 を発見との連携も不可欠